

2018 安全報告書

(4) 指導指令式訓練

7月29日終車後、本線の下り線に支障が発生したことを想定し、お客様の輸送を安全且つ迅速、正確に取扱うため、指導指令式による有人運転および、転てつ器手回し等の訓練を実施しました。

※指導指令式とは、複線区間で片線が不通となり、一線のみで運転することをいいます



訓練実施に対する直前ミーティング



指導指令式施行の通告を受けた運転員

(5) 防災訓練

9月1日(防災の日)、大規模な地震が発生したことを想定し、情報伝達訓練および運行している列車の駅一旦停止訓練を実施するとともに、車両基地にて車両非常口扉からの避難誘導訓練も実施しました。



避難誘導訓練の実施状況

(6) 社員全体研修

2月19日・20日・21日、全社員を対象に「異常時コミュニケーション」をテーマとして、外部専門機関(鉄道総合技術研究所)から講師を招き、職場間の情報伝達やコミュニケーションの重要性などについて、研修を実施しました。



社員全体研修の実施状況

(7) お客様への啓発活動

当社線を更に安全にご利用いただけるよう、啓発活動として注意喚起のマグネットをお客さまへ配布しました。



配布の様子



配布マグネット

6 輸送の安全を支える設備

輸送の安全を支える設備として、ホームドア、ITVモニター、CTC装置(列車集中制御装置)、ATC装置(自動列車制御装置)、ATO装置(自動列車運転装置)、気象観測装置(地震計・風速計)、非常停止ボタン、インターホン、防犯カメラ等を設置しています。

2017年度は、前照灯LED化改造、風向風速計更新、通信用UPSバッテリー更新、IP無線機増備等に総額約1千4百万円を充てました。

(1) 主な設備

① ホームドア

線路への転落を防止するため、全駅のホームに整備しています。このホームドアは列車のドアと連動して開閉します。また、万が一お客様がドア挟まれた場合には、再びドアが開く仕組みとなっています。



ホームドア

② 防犯カメラ

お客さまに安心してご利用いただくため、犯罪予防を目的に全駅のホーム・コンコースおよび車内に設置し、常時録画しています。



車内防犯カメラ



ホーム防犯カメラ

⑨ 非常停止ボタンおよびインターホン

緊急時に備え、全駅のホーム中程および電車の各客室に設置しています。



駅ホームの非常停止ボタンおよびインターホン



電車内の非常停止ボタンおよびインターホン

7 お客様へのお願い

- (1) 不審物を発見された場合は手を触れずに、お近くの駅係員または、インターホンにてお知らせください。
- (2) 発車間際の駆け込み乗車は大変危険です。無理をせず次の電車をお待ちください。また、閉まりかけたドアへ杖や傘等を挟まないようお願いいたします。万が一、挟まれてしまった場合は、無理に引き抜かず、車内または、ホームのインターホンにてお知らせください。
- (3) 電車は危険回避のため、急ブレーキをかける場合がございます。車内では、つり革、手すりにおつかまりいただきますようお願いいたします。

8 お問い合わせ

この安全報告書に対するご意見・ご感想などをお寄せください。

運 輸 課……………Tel 045-787-7016
(平日 9:00~17:20)

総 務 課……………Tel 045-787-7002
(平日 9:00~17:20)

ホームページ……………「よくあるご質問」
<http://www.seasideline.co.jp>



株式会社横浜シーサイドライン



1 ご利用のお客様へ

日頃よりシーサイドラインをご利用いただきまして、誠に有難うございます。

シーサイドラインは新杉田駅から金沢八景駅を10.6kmで結び、1日当たり5万2千人のお客さまにご利用いただいております。

シーサイドラインでは、お客さまに安心してご利用いただくため、様々な取り組みを行っております。2017年度は、安全重点施策に『コミュニケーションの活性化』を掲げ、職場内や職場間といった、縦横に風通しの良い職場環境を構築することが不可欠であることから、前年度に引き続きコミュニケーションについて一人ひとりが積極的に行うとともに、それを会社風土として定着させる取り組みを行った結果、開業以来の“無事故”の継続を達成することができました。これもひとえに、ご利用いただいている皆様のご理解とご協力の賜物と感謝いたしております。

また、中期経営計画に基づき、安全運行の確保、お客さまサービスの向上、地域との共生、増収対策等の重点施策に全社員一丸となって取り組んで参りました。

安全運行を確保するため車両前照灯のLED化、風向風速計の更新等、列車運行に係る安全対策を着実にすすめ、安全、安定輸送に万全を期しているところでございます。

金沢シーサイドライン延伸工事につきましては、高架橋工事と駅舎の鉄骨工事が完了し、引き続き駅舎の屋根工事や外壁工事を進め、2018年度の完成を目指しております。

本報告書は、2017年度における輸送の安全に対する取り組み等を、皆様に広く紹介するために作成いたしました。本報告をご一読いただき、ご意見・ご感想をいただけましたら幸いです。

代表取締役社長 三上 章彦

経営理念

1. 私たちは、公共交通機関に携わる者としての自覚を持ち、安全第一を最優先とします。
2. 私たちは、常にお客様へのサービスを心がけ、感謝の気持ちを忘れずに信頼を高めます。
3. 私たちは、一人ひとりが自己研鑽に励み、責任を自覚し、自立した企業を目指します。

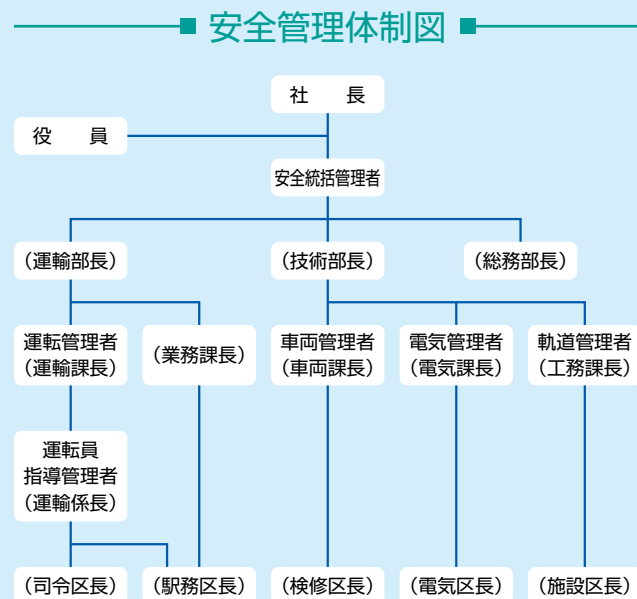
2 安全方針

当社では、輸送の安全を確保するための安全方針を下記のとおり掲げ、社員全員に周知・徹底しています。

- (1) 安全の確保は輸送の生命である。
- (2) 規程の遵守は安全の基礎である。
- (3) 執務の厳正は安全の要件である。
- (4) 事故・災害が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置を取る。
- (5) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
- (6) 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。

3 安全管理体制

社長をトップとする安全管理体制を構築しており、各責任者の責務を明確にし、それぞれが安全確保のための役割を担っています。



役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
運 転 員 指 導 管 理 者	運転管理者の指揮の下、運転員の資質の保持に関する事項を管理する。
車 両 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
電 気 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、電気に関する事項を統括する。
軌 道 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設に関する事項を統括する。
総 務 部 長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

4 2017年度輸送障害・事故等について

(1) 鉄道運転事故
(衝突、脱線、火災など、または死傷者の発生に至る事故)
鉄道運転事故の発生はありませんでした。

(2) 輸送障害
(列車の運休、または旅客列車の場合は30分以上の遅延が発生したもの)

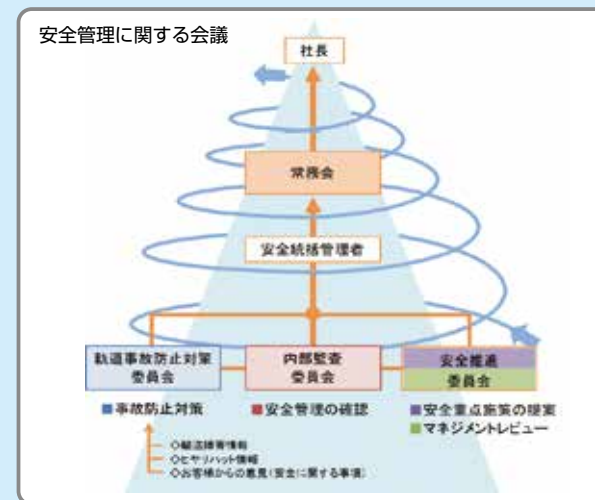
- 輸送障害は合計で2件発生しました。
- 10月23日 台風21号接近に伴う強風の影響により、運休および遅延が発生しました。
- 1月23日 降積雪の影響により、運休および遅延が発生しました。

(3) インシデント
(鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められるもの)
インシデントの発生はありませんでした。

5 安全を支える取り組みについて

(1) 安全管理に関する会議

社長を委員長とし、安全統括管理者をはじめとする全部長、課長、現業区長が委員として参画している軌道事故防止対策委員会において、安全に関する様々な調査や審議を行っており、その情報は各管理職を通じて社員一人ひとりにまで伝達しています。また、安全統括管理者を委員長とした内部監査委員会、安全推進委員会の内容についても軌道事故防止対策委員会で報告され情報共有を図っています。



(2) コミュニケーションの活性化の状況

社長、運輸部長および技術部長は、夏季および年末年始の輸送安全総点検等の機会を捉えて、安全の重要性を現業の社員に伝えるとともに、日常業務に対するマンネリ化を防止するため、日頃より各職場へ出向いてコミュニケーションの活性化に取り組む等、安全管理態勢に主体的かつ積極的に関与しています。

【社長の巡視状況】



司令区



電気区・施設区

【部長の巡視状況】



運輸部長の巡視状況
(駅務区)



技術部長の巡視状況
(検修区との意見交換会)

(3) 軌道事故復旧訓練

9月9日、架線剥離が発生したことを想定して対策本部を立上げ、「軌道事故・災害対策規程」および「異常時対応の基本行動マニュアル」に基づき、対策本部長(社長)を中心とした軌道事故復旧訓練を実施しました。



軌道事故復旧訓練の実施状況